

2026年度 入学試験問題
第2回 S特選コース

国語

(45分)

〔注意〕

- 1 この問題冊子は、試験開始の合図で開くこと。
- 2 解答用紙は、問題冊子にはさんであります。試験開始の合図があったら、解答用紙を取り出して受験番号と氏名を記入し、受験番号をマークすること。
- 3 解答は全て解答用紙に記入しなさい。
* 字数制限のある場合は、特別な指示がない限り、すべて句読点や「」（ ）などの記号を含んだ字数として解答すること。
- 4 印刷が不鮮明な場合は申し出ること。
- 5 問題冊子の余白等は自由に使って構いません。
- 6 試験終了後、解答用紙のみ提出し、問題冊子は持ち帰ること。

一 次の――線の漢字はひらがなに、カタカナは漢字に直して答えなさい。

- 1、沖合で漁をする。
- 2、髪を無造作に結ぶ。
- 3、版図を広げる。
- 4、至極当たり前の話だ。
- 5、商店街で金物を扱う店を探す。
- 6、ナラクの底からはいあがる。
- 7、めだかのセイタイ系を観察する。
- 8、ボウメイ者のリストを探す。
- 9、不手際をシンシャする。
- 10、ハガネの板を取り寄せる。

二 次の【文章Ⅰ】を読んで、あとの問いに答えなさい。

【文章Ⅰ】

澄田^{すみだ}花苗^{かなえ}は、種子島に住む高校三年生の女の子。中学二年生の春に転校してきた遠野^{とのお}貴樹^{たかき}に出会い、少しずつ彼に好意を抱くようになる。遠野と同じ高校に行くことを希望し、一生懸命勉強して合格したが、なかなか気持ちを伝えられずにいた。

夜七時四十五分。私はコンビニのドリンク売り場の前にしゃがみ込んでいる。今日はひとりだ。^(注)單車置き場の前でしばらく待ってみたのだけれど、遠野くんは現れなかった。何もかもツイていない一日。私は結局またヨーグルッペを買ってしまう。コンビニの脇^{わき}に停めたバイクに寄りかかり、甘い液体を一気に飲み込み、ヘルメットをかぶり、バイクにまたがる。

まだほんのりと明るさの残る西の地平線を横目で眺めながら、私は高台の脇道をバイクを走らせている。左手には眼下に町が一望できて、視界

の隅の林越しには海岸線も見える。右手は畑を挟んでちよつとした丘になっている。わりと平坦なこの島の中ではこのあたりは眺めの良い場所、遠野さんの帰り道でもある。ゆっくり走っていたら、もしかして後ろから追いついてきたりして。それともやっぱり先に行っちゃったのかしら。①バイクのエンジンがA 咳き込み、ほんのちよつとの間だけエンジンが止まり、何事もなかったかのように元に戻る。②このカブももうお婆ちゃんだよなあ。「カブ大丈夫ー？」と呟いたところで、前方の道路脇に停められたバイクが目に入った。彼のバイクだ！となぜか私ははじかれるように確信し、並べてバイクを停めた。

ほとんど無意識のうちに、私は高台の斜面を登り始めていた。柔らかな夏草を踏みしめる感触。やばい。何やってるんだろう私。私はB 冷静になる。近くで見たバイクはやっぱり遠野さんのだったけれど、私はこんなふうに彼のところに押しかけて一体何をしたいのだろうか。こんなふうに会わない方がいいに決まっているのだ。きっと私自身のために。それでも足は止まらず、大きな草の段差を踏み越えて拓けた視界の向こうに、彼はいた。星空を背に高台の頂上に座り込んで、やっぱり携帯メールを打ちながら。

まるで私の心を揺らすためのように風がC 吹いてきて、私の髪と服を揺らし、あたりは草のさざめく音に満ちた。その音に呼応するように私の胸はどくどくと大きな音を立て始めて、③私はそれを聞きたくなくてわざと大きな音を立てて斜面を登る。

「おーい、遠野くん！」

「あれ、澄田？ どうしたの、よく分かったね」すこし驚いたように、④遠野くんが私に向かって大きな声で喋ってくれる。

「へへへ……。遠野さんの單車があつたから、来ちゃった！ いい？」と言いながら、私は早足で彼に向かう。こんなのはなんでもないことなのよ、と自分に言い聞かせながら。

「うん、そうか。嬉しいよ。今日は單車置き場で会えなかったからさあ」

「あたしも！」とできるだけ元気に私は言つて、スポーツバッグを肩から降ろしながら彼の隣に座り込む。嬉しい？ ホントなの遠野くん？ 心が臓がなんだかずきずきする。彼のいる場所に來た時は、いつもだ。ここじゃない、という言葉が一瞬だけ心をよぎる。西の地平線はいつのまにかすっかり闇に沈んでいる。

「次第に強くなる風が、A 眼下に遠く広がる町のまばらな電灯をちらちらと瞬かせている。小さく見える学校にはまだいくつか明かりがついている。B 国道沿いの黄色い点滅信号の下を、車が一台走っている。町の体育施設にある巨大な白い風車が勢よく回っている。雲の数は多く流れは速く、切れ間には天の川と夏の⑤大三角形が見える。ベガ、アルタイル、デネブ。風は耳元で巻いてヒュウウウという音をたて、草と木とビルハウスが揺れるザアツという音と盛大な虫の音が混じり合っている。強く吹く風は私をD 落ち着かせる。あたりは強い緑の匂いに

満ちている。」

そんな風景を眺めながら、私と遠野くんは隣り合って座っている。鼓動はもうずいぶん静まっていて、彼の肩の高さを間近で感じていられることが、私は素直に嬉しい。

「ねえ、遠野くんは受験？」

「うん、東京の大学受ける」

「東京……。そうか、そうだと思ったんだ」

「どうして？」

「遠くに行きたそうだもの、なんとなく」そう言いながら、あまり動揺していない自分に驚く。遠野くんの口から現実には東京行きを聞いたりなんかしたら目の前が真っ暗になるかと思っていたのに。すこしの沈黙の後、優しい声で彼が言う。

「……そうか。澄田は？」

「え、あたし？ あたし、明日のことも分からないのよね」呆れるよね遠野くん、と思いながら私は正直に話せてしまう。

「たぶん、誰だってそうだよ」

「え、うそ!? 遠野くんも？」

「もちろん」

「ぜんぜん迷いなんてないみたいに見える！」

「まさか」静かに笑いながら彼は続ける。「迷ってばかりなんだ、俺。できることをなんとかやってるだけ。余裕ないんだ」

どきどきする。すぐ隣にいる男の子がこんなことを考えているということ、それを私だけに言ってくれているということが、むしろ嬉しくてどきどきする。

「……そっか。そうなんだ」

そう言っ、私はちらっと彼の顔に目をやる。まっすぐに遠くの灯りを見つめている。遠野くんがまるで、無力で幼い子どもみたいに見える。私はこの人のことが好きなんだと、今さらながら強く思う。

——そうだ。いちばん大切ではっきりしていることは、これだ。私が彼を好きだということ。だから私は、彼の言葉からいろんな力をもらえてしまう。彼がこの世界にしてくれたことを、どこかの誰かに感謝したくてたまらなくなる。たとえば彼の両親、たとえば神さま。そして私はスポーツバッグから進路調査用紙を取り出して、折り始めた。いつのまにか風はすっかり凪いでいて、草のざわめきも虫の音もずいぶん静かになっている。

「……それ、飛行機？」

「うん！」

⑤ できあがった紙飛行機を、私は町に向かって飛ばした。それは驚くくらい遠くまでまっすぐに飛んでいき、途中で急な風に吹き上げられ、空のずっと高いところで闇に紛れて見えなくなった。折り重なった雲の合間から、白い天の川がくつきりとのぞいていた。

(新海誠「小説秒速5センチメートル」より)

(注1) 「単車」……エンジン付きの二輪車。オートバイ、スクーターなど。

(注2) 「ヨーグルッペ」……乳酸菌飲料。

(注3) 「カブ」……小さくて軽いバイク。澄田達の島には電車がなく、バスも本数が少ないので通学用には欠かせない移動手段として使われている。

(注4) 「夏の大三角形」……こと座のベガ、わし座のアルタイル、はくちよう座のデネブを結んでできる三角形。

(注5) 「風いで」……やんで静かになって。

問一、

 にあてはまる言葉の組み合わせとして最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

- | | | | |
|-------------|--------|-----------|---------|
| ア、Aーどどとと | Bーほろりと | Cーびゅうびゅうと | Dーほろりと |
| イ、Aーがると | Bーはつと | Cーざーつと | Dーだんだんと |
| ウ、Aーキュルキュルと | Bーきゅんと | Cーふわりと | Dーだんだんと |
| エ、Aーがると | Bーきゅんと | Cーばさばさと | Dーじわじわと |

問 二、——線①「バイクのエンジンが咳き込み」・②「このカブももうお婆ちゃんだよなあ」と同じ表現技法が用いられているものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア、コスモスが恥ずかしそうにうつむいている。
- イ、初冬の雪はまるで羽のように舞っている。
- ウ、彼の挙措^{きよそ}動作は勇猛な一匹のライオンだ。
- エ、空には朝日の光を浴びた白い鳩が舞っていた。

問 三、——線③「私はそれを聞きたくなくて」とありますが、その説明として最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア、「それ」の指示内容は、風のさざめく音であり、この音を聞くことで、心が揺れるのを意識しなくなかったということ。
- イ、「それ」の指示内容は、風のさざめく音であり、風の音に呼応する自分の動揺を意識しなくなかったということ。
- ウ、「それ」の指示内容は、自分の胸の鼓動であり、自身の恋心や強い期待を恥ずかしく思っていたということ。
- エ、「それ」の指示内容は、自分の胸の鼓動であり、自身の感情の高まりや緊張を認めなくなかったということ。

問 四、——線④「遠野くんが私に向かって大きな声で喋ってくれる」とありますが、この時の「遠野くん」の気持ちはどのようなものでしたか。それを説明した次の文の空欄にあてはまる言葉の組み合わせとして最も適当なものをあとから選び、記号で答えなさい。

私が突然現れたことに

1

2

 ながらも、

2

 がにじみ出た気持ち。

- ア、1—驚き 2—嬉しさ
- イ、1—怒り 2—嬉しさ
- ウ、1—驚き 2—悲しさ
- エ、1—怒り 2—悲しさ

問 五、――線ア「眼下」・イ「国道」・ウ「点滅」・エ「風車」のうち、他と構成が異なる熟語を一つ選び、記号で答えなさい。

問 六、「 」を付けた段落の表現の説明として適当でないものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア、時間の経過と空間の広がり、視点の高さや距離感も巧みに織り込んだ表現になっている。

イ、自然との一体感や自然による癒しいやすが描かれ、登場人物の内面の変化を感じさせる。

ウ、擬音語ぎおんごが、風や自然の音をリアルに再現し、詩的で、情緒豊じょうちゆうかな表現になっている。

エ、状況を「私」の感覚を用いて表現することで、臨場感が増している。

問 七、――線⑤「できあがった紙飛行機」とありますが、この説明として最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア、紙飛行機が「進路調査用紙」で作られたことは、「私」自身の将来や進路、選択を象徴するものであり、それを折って飛ばすことで、自分の未来を空に託たくし、遠野さんと共に東京へ飛び出すということを意味している。

イ、紙飛行機が「進路調査用紙」で作られたことは、将来や進路、選択に対して「私」自身が自暴自棄になっており、それを折って飛ばすことで、自分の未来への希望を捨て、遠野さんと遠くへ行くことを意味している。

ウ、「進路調査用紙」で作った紙飛行機が「驚くくらい遠くまでまっすぐに飛んでい」ったことから、迷いや不安を乗り越えて、「私」の気持ちがいますぐに未来へ向かっていることを暗示している。

エ、「進路調査用紙」で作った紙飛行機が「空のずっと高いところで闇まきに紛れて見えなくなった」ことから、「私」の未来は、全く光を見出すことができない絶望的なものであることを暗示している。

問 八、【文章Ⅰ】と次の【文章Ⅱ】―【文章Ⅳ】を読み比べ、それぞれの文章表現について生徒達が話し合いました。これらを読み、あとの問いに答えなさい。

【文章Ⅱ】

茶店の前には花のさいた梅に、西日の光が消えかかっている。

（芥川 龍之介「トロッコ」より）

【文章Ⅲ】

あれから何年かが経って、今ならばわたしは分かる。

わたしは最初から牧野先輩に徹底的に舐められていたのだろうし、雪野先生はただ優しいだけの被害者だった。今のわたしが当時の相澤祥子や牧野真司に会えたとしたら、もっと適切な処置ができたはずだと思う。彼らが本当に求めていたはずのものを、もっと正しい形で引き出して、導くことができたはずだと思う。でも当時は――

……なーんて回想形式でソウタイ化して語ることができれば、わたしも、わたしの話を聞いてくれるかもしれない誰かも、きっとホッとすることだろう。でも残念ながらこれは終わった話ではなく、今も続いている話だ。

（新海 誠「小説言の葉の庭」より）

【文章Ⅳ】

かつてとても強い気持ちで、俺はなにかを決心したことがある。

帰り道に誰かの窓灯りを見上げながら、コンビニで弁当に手を伸ばしながら、ほどけた靴の紐を結びなおしながら、そんなことをふと思い出す。俺はかつて、なにかを決めたのだ。誰かと出逢って、いや、誰かと出逢うために、なにかを決めたのだ。

顔を洗って鏡を見つめながら、ゴミ出し場にビニール袋を置きながら、ビルの隙間の朝日に目を細めながら、俺はそう考え、苦笑する。誰かとかなにかとか、結局なにも分かってねえじゃねえか。

面接会場の扉を閉めながら、でも、と俺は思う。

でも、俺は今もがいている。大袈裟な言い方をしてしまえば、人生にもがいている。

（新海 誠「小説君の名は。」より）

生徒A——【文章Ⅱ】で用いられている象徴法と【文章Ⅰ】の 1 で用いられている象徴法は似ているね。

生徒B——そう、消失しかかっているものの、先行きの展開にわずかでも 2 を抱いているという点には、共通性があるね。

生徒C——共通性という意味では、【文章Ⅰ】の中の~~~~線部分と【文章Ⅲ】・【文章Ⅳ】は、作者である新海誠さんの心境描写の特徴が見てとれると思う。

生徒D——文章中の言葉を借りれば、 3 ということでしょう？ 4 と混ざり合わせることで、読者は、 5 を持ちつつ登場人物に感情移入していける効果があるんじゃないかな。

(注) 象徴法……ある言葉や物を使って、別の意味や気持ちを表す方法。

1、 1 にあてはまる一文を【文章Ⅰ】の A より前の部分から探し、最初の五字を抜き出して答えなさい。

2、 2 ・ 4 ・ 5 にあてはまる言葉の組み合わせとして最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

- | | | |
|-----------|--------|---------|
| ア、 2 — 希望 | 4 — 情緒 | 5 — 公平性 |
| イ、 2 — 事実 | 4 — 理性 | 5 — 偏見 |
| ウ、 2 — 希望 | 4 — 主観 | 5 — 客観性 |
| エ、 2 — 偏見 | 4 — 情緒 | 5 — 公平性 |

3、 3 にあてはまる言葉を【文章Ⅱ】～【文章Ⅳ】のいずれかの文章中から十字以内で探し、抜き出して答えなさい。

【三】 次の【文章Ⅰ】は十五年ほど前に書かれたものです。これを読んで、あとの問いに答えなさい。なお、設問の都合上、一部省略した箇所があります。

【文章Ⅰ】

① 漢字は表意文字です。かな（ひらがな、かたかな）は表音文字です。表意文字は図像で、表音文字は音声です。私たちは図像と音声の二つを並行処理しながら言語活動を行っている。でも、これはきわめて例外的な言語状況^{（注1）}なのです。

文字と音声の両方を使うという点では世界中の文字言語はどこも同じじゃないかと言う人がいるかも知れませんが、^②日本はちよつと違う。

これは養老^{（注1）}孟司先生からうかがったことの受け売りですけど、脳の一部に損傷を受けて文字が読めなくなる事例がいくつか報告されています。生得的な難読症とは違います。文字処理を扱っている脳部位が外傷によって破壊された結果です。欧米語圏では失読症の病態は一つしかない。文字が読めなくなる。それだけです。

A

、日本人の場合は病態が二つある。「漢字だけが読めない」場合と「かなだけが読めない」場合の二つ。意味することはわかりますね。漢字とかなは日本人の脳内の違う部位で処理されているということです。

B

、片方だけ損傷を受けても、片方は機能している。

日本人の脳は文字を視覚的に入力しながら、漢字を図像対応部位で、かなを音声対応部位でそれぞれ処理している。記号入力を二箇所に分けて並行処理している。だから、失読症の病態が二種類ある。

言語を脳内の二箇所^{（注2）}で並列処理しているという言語操作の特殊性はおそらくさまざまな^③私たち日本語話者の思考と行動を規定しているのではないかと思います。

もともと際立った事例は「マンガ」という表現手段が日本において選択的に進化したという事実です。これに異論のある人はいないでしょう。マンガの生産量についても、質についても、^{（注2）}イノベーション^{（注2）}の速度においても、日本は世界を圧倒しています。

今フランスの書店に行くと「MANGA」というコーナーがあります。数年前まではありませんでした。もちろん日本のマンガ（『ドラゴンボール』とか『ドラえもん』とか）は出ていましたけれど、それは「バンド・デシネ^{（注3）}」という既存^{（注3）}のジャンルに含まれていました。それが数年前から別建^{（注3）}てになりました。内容の違いによって差別化されたわけではありません。「マンガ」と「バンド・デシネ」は製本の仕方が違うので、別の棚に配架^{（注3）}されるようになったのです。

日本のマンガは日本の雑誌掲載時のスタイルのまま、文字は縦書き、頁^{（注3）}は右から左へ進みます。欧米の漫画は文字は横書き、頁は左から右です。欧米の漫画を読みなれた読者にとって、物語が右から左へ移行するマンガを読むためにはリテラシー^{（注3）}そのものの書き換えが必要でした。そのような

なりテラシーがまだ十分に育っていない時期は、日本のマンガは「裏焼き」^(注5)され、欧米仕様の読み方で読めるように改作されていました。

それが今では、マンガだけは、欧米でも、日本で読むのと同じ製本、同じコマ割りで読めるようになった。欧米の若い読者たちがマンガをオリジナルの味わいで読むことができるように、⁽⁴⁾彼らのリテラシーそのものを書き換えたのです。彼らが自分たちの文字の読み方の定型を崩しても惜しくないと思えるだけの水準の質に日本のマンガが達したということです。

なぜ、日本人の書くマンガだけが（とりあえず今までのところはということですが）例外的な質的高さを達成しうるのか。これは⁽⁵⁾言語構造の特殊性によるのである、ということを見破されたのは、これまた養老先生です（受け売りばかりして、すみません）。

（中略）

私たちはもう漢字の原意を知りません。けれども、漢字がその起源においては、私、た、ち、の、心、身、に、直、接、的、な、力、能、を、ふ、る、う、も、で、あ、っ、た、と、い、う、記、憶、は、お、そ、ら、く、い、ま、だ、意、識、の、深、層、に、と、ど、め、て、い、る。漢字というものは持ち重りのする、熱や振動をともなった、具体的な物質性を備えたものとして私たちは引き受けた。そして、現在もなお私たちはそのようなものを日常の言語表現のうちで駆使^{くし}しています。

私は日本人が漢字を読むときに示す身体反応と、中国人が漢字を読むときに示す身体反応は違うだろうと思います。中国人にとって、漢字は表意文字であると同時に表音文字でもあるからです。だから、外来語をそのまま漢字に音訳して表記することができる。日本語は外来語はカタカナ表記で処理しますから、漢字は表意に特化されている。だから、漢字の表意性は中国語においてよりも純粹であり、それだけ強烈であるはずですがとすれば、⁽⁶⁾白川漢字学の言う漢字の「呪^{じゆ}的機能」は現代中国より現代日本においていまだその残存臭氣^{しゅうき}をとめているのではないか。

アルファベットを用いる言語圏と、漢字を用いる言語圏での難読症の発生率には有意な差が示されていますが、おそらく日本語話者において、難読症の発生は世界でもっとも少ないはずで、医学的にはまったくの素人^{しらうと}の推測ですから、専門家は取り合ってくれないでしょうけれど、文字がざくりと身体に刻み込まれ、切り込んでくるという感覚の鋭さは、日本語話者と英語話者では明らかに違う。⁽⁷⁾“curse”^(注7)という文字が英語話者にもたらす不安と、⁽⁸⁾咒^{じゆ}が漢字読者にもたらす不安は⁽⁷⁾質が違^{ちが}うはずで、

私たちは言語記号の表意性を物質的、身体的なものとして脳のある部位で経験し、

C

その表音性を概念的、音声的なものとして別の脳内部位で経験する。養老先生のマンガ論によりますと、漢字を担当している脳内部位はマンガにおける「絵」の部分処理している。かなを担当している部位はマンガの「ふきだし」を処理している。そういう分業が果たされている。

マンガは「絵」と「ふきだし」から構成されています。「ふきだし」が文字で書かれているので、私たちはそれが表意機能ではなく、表音機能を担っているというのをうっかり見落としていますが、間違いなく「ふきだし」は音声なのです。

私が生どもの頃、マンガを読むとき、「ふきだし」部分を音読している子どもがずいぶんいました。あの子どもたちはおそらく音読することを通じて、『ふきだし』は音声記号として処理せよ』という命令を自分の脳に刷り込んでいたのではないのでしょうか。私自身はマンガを黙読していま

したが、それは幼児期からのマンガのヘビー・リーダーであつたために「ふきだし」を表音記号として処理する回路がもう出来上がっていたからではないかと思ひます。というのは、音読していると頁をめくる速度が遅くなるからです。寸暇を惜しんでマンガを読んでいる身としてはそんな手間暇をかけるわけにはゆかない。

マンガを読むためには、「絵」を表意記号として処理し、「ふきだし」を表音記号として処理する並列処理ができなければならないわけですが、日本語話者にはそれができる。並列処理の回路がすでに存在するから。だから、日本人は自動的にマンガのヘビー・リーダーになれる。

(内田樹「日本辺境論」より)

- (注1)「養老孟司先生」……………解剖学者。
(注2)「イノベーション」……………革新。
(注3)「『バンド・デシネ』という既存のジャンル」……………以前からフランス語圏に存在する、広く読まれている芸術性の高いストーリー漫画。
(注4)「リテラシー」……………読み書きの能力。
(注5)「裏焼き」……………ここでは、頁を左右逆にするという意味。
(注6)「白川」……………中国文学者・中国古代学者・漢字研究者の白川静氏のこと。
(注7)「curse」……………「のろう」という意味。
(注8)「呪」……………「呪」と同じ意味の文字。
(注9)「概念的」……………物事について大まかに把握するさま。
(注10)「ヘビー・リーダー」……………ここでは、マンガをたくさん読む人のこと。

問 一、~~~~線「寸暇を惜しんで」の意味として最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア、少しの時間も無駄にせず活用して
イ、我を忘れて物事に集中して
ウ、なるべく早く済ませようとして
エ、好きなことだけ熱心に取り組んで

問 二、——線①「漢字」とありますが、日本人にとって「漢字」とはどのようなものですか。それが述べられている一文を文章中から探し、最初の五字を抜き出して答えなさい。

問 三、——線②「日本はちょっと違う」とありますが、これを説明した次の文の空欄にあてはまる言葉を文章中から十字で探し、抜き出して答えなさい。

日本人は、文字と音声を 十字 しているということ。

問 四、A C にあてはまる言葉を次から選び、それぞれ記号で答えなさい。ただし、同じ記号は一度しか使えません。

ア、なぜならば イ、つまり ウ、一方 エ、ところが オ、たしかに カ、だから

問 五、——線③「私たち日本語話者の思考と行動を規定している」とありますが、その事例として「マンガ」を挙げているのはなぜですか。その理由が述べられている一文を文章中から探し、最初の五字を抜き出して答えなさい。

問 六、——線④「彼らのリテラシーそのものを書き換えた」とありますが、これはどのようなことですか。最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア、フランスの書店では、「MANGA」のコーナーが設けられ、だれでも日本の「マンガ」が読めるようになったこと。
イ、フランスの書店では、「MANGA」と「バンド・デシネ」が製本の仕方の違いによって差別化されるようになったこと。
ウ、欧米人が文字の読み方の定型を崩し、日本と同じ製本、同じコマ割りで日本の「マンガ」を読むようになったこと。
エ、欧米人が「マンガ」を日本と同じ製本、同じコマ割りで読みたいと思うほど、日本の「マンガ」が高く評価されたこと。

問 七、——線⑤「言語構造の特殊性」とありますが、これはどのようなことですか。文章中の言葉を使って二十字以内で答えなさい。

問 八、——線⑥「白川漢字学の言う漢字の『呪的機能』」とありますが、これに関する次の【文章Ⅱ】を読み、【図Ⅰ】を見て、あとの問いに答えなさい。

【文章Ⅱ】

白川静先生が教えるように漢字というのは、世界のありさまや人間の a を図示したものです。白川漢字学を中心になるのは「サイ」という b 要素です。「サイ」は英語のDの弧の部分を下向きにしたかたちです。

この文字を後漢の『説文解字』以来学者たちは「口」と解したのですが、白川先生はこれを退け、これが「祝詞(注2)を入れる器」、もともと根源的な呪具の象形であるという新解釈を立てました。そしてこれを構成要素に含む基本字すべての解釈の改変を要求したのです。

(中略)

白川先生の解釈から私たちが知るのは、古代の呪術的な戦いは言葉によって展開したということです。「文字が作られた契機(注3)のうち、もつとも重要なことは、ことばのもつ呪的な機能を、そこに定着し永久化することであった」ということです。

(内田樹「日本辺境論」より)

(注1)「後漢の『説文解字』」……「後漢」は中国古代の王朝。『説文解字』は中国最古の漢字字書。

(注2)「祝詞」……儀式など改まった場面で、神を祭り、また、神に祈るときに神前で唱える古体の言葉。

(注3)「象形」……ものの形を写すこと。

【図Ⅰ】……【文章Ⅱ】で述べられている「サイ」



(出典:「白川静さんに学ぶ漢字は楽しい」より)

1、

a

にあてはまる言葉として最も適当なものを【文章Ⅰ】の内容を踏まえて次から選び、記号で答えなさい。

ア、欲望
イ、ふるまい
ウ、感情
エ、けはい

2、

b

にあてはまる言葉として最も適当なものを【文章Ⅰ】から二字で探し、抜き出して答えなさい。

問九、——線⑦「質が違はずです」とありますが、それはなぜですか。その理由が述べられている部分を「〜から。」に続くように文章中から十三字で探し、抜き出して答えなさい。

